

# モニタリング・地域連携(案)

平成23年12月19日

# 目次

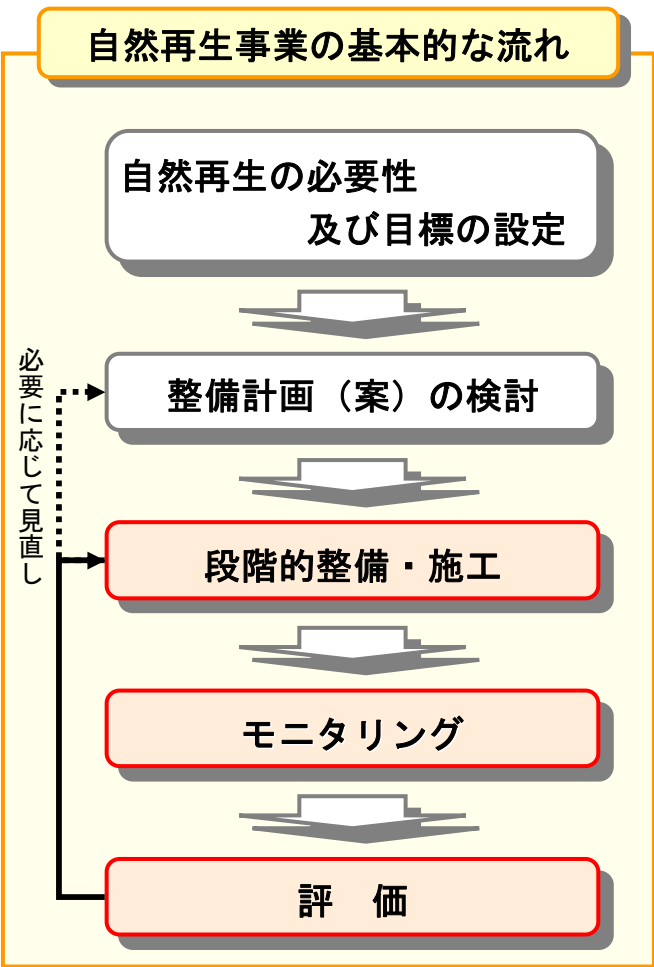
1. モニタリング計画（案） .....	1
2. 地域連携 .....	3

# 1. モニタリング計画（案）

## （1）基本的な考え方

- ・自然再生の実施においては、モニタリングを実施しながら整備・施工の効果・影響を把握し、事前事後の知見の蓄積及び比較、実践へのフィードバックが順応的管理の視点から極めて重要である。
- ・縦断的連続性の再生、氾濫原・湿地環境の再生では、段階的な整備・施工に基づいたモニタリングにより、施工前後での物理環境の変化を把握し、その変化による生物の生息状況の変化を把握する。その結果を踏まえ評価した結果を今後の対策にフィードバックし必要に応じて見直していく。
- ・瀬淵や湿地環境の保全箇所については、モニタリングにより環境の変化状況を監視していく。

### 自然再生事業の基本的な流れ



### モニタリングの基本的な考え方

- ・河川環境の保全・再生において、河川の物理環境の変化と生物の応答や生息環境の変化、生態系との関係は十分に解明されていない点が多い。
- ・櫛田川における自然再生事業は、左図に示す流れで段階的整備・施工を実施し、モニタリングを通じて評価し、事業にフィードバックを行う。
- ・自然再生の整備効果を評価するためには、日常の状態把握とともに、短期的な効果把握と中・長期の環境状態を把握するモニタリングを実施する。
- ・モニタリングは、河川管理者と自治体等の関係機関と連携して地域住民、NPO、団体などの参画を促し、継続的な連携・協働による活動が広がることを目指す。
- ・「櫛田川自然再生検討会」を通じモニタリング結果から効果に関する助言をいただき、評価する。また、評価を踏まえ必要に応じ事業を見直していく。

### モニタリングの実施方針

**【日常モニタリング】**  
河川巡視や地域の方々の日常的な河川利用における情報をもとに整備箇所等の状態を把握する。

日常的に  
環境状態  
を把握

#### 【短期モニタリング】

整備の事前・事後に調査を実施し、効果を把握する。

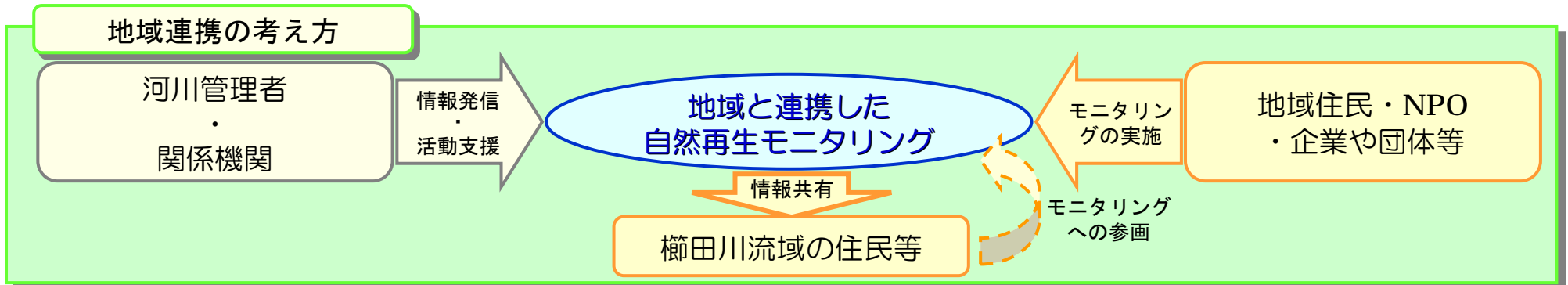
#### 【中・長期モニタリング】

整備箇所及び河川・流域の中・長期的な環境変化と整備効果を継続的に把握し、環境状態を把握する。

# 1. モニタリング計画（案）

## （2）連携によるモニタリングの考え方

- ・ 河川管理者やNPO、地域住民など、さまざまなレベルでモニタリングを行い、それぞれの調査・評価方法も勘案しながら適切に組み合わせることにより、モニタリングに関わる全ての人が自然再生の目的を理解でき、きめこまやかな管理を実現することが可能となる。
- ・ このため、自然再生におけるモニタリングは、地域と関係機関が一体となって取り組んでいくように努める。



### モニタリング項目

#### 調査項目

##### 日常モニタリング<sup>※</sup>（日常的な情報を元に、整備箇所等の状態を把握）

- ・ 魚道遡上状況、魚類生息状況等の目撃情報の把握
- ・ 河川巡視等による調査

##### 短期モニタリング<sup>※</sup>（事業効果の把握）

- ・ 魚道機能調査
- ・ 周辺河道の状況調査
- ・ 魚道遡上調査
- ・ 堰周辺河道の魚類分布調査
- ・ 再生したワンド・たまりの状況調査
- ・ 再生したワンド・たまりの魚類調査

##### 中・長期モニタリング<sup>※</sup>（中長期的な環境変化の把握）

- ・ 魚類生息状況の簡易調査
- ・ 河川水辺の国勢調査を活用した魚類調査
- ・ 河川水辺の国勢調査などによる瀬淵、ワンド・たまりの実態調査
- ・ 施設の機能点検調査

#### 連携による調査が可能な項目

##### 日常モニタリング<sup>※</sup>

- ・ 魚道遡上状況、魚類生息状況等の目撃情報の把握

##### 短期モニタリング<sup>※</sup>

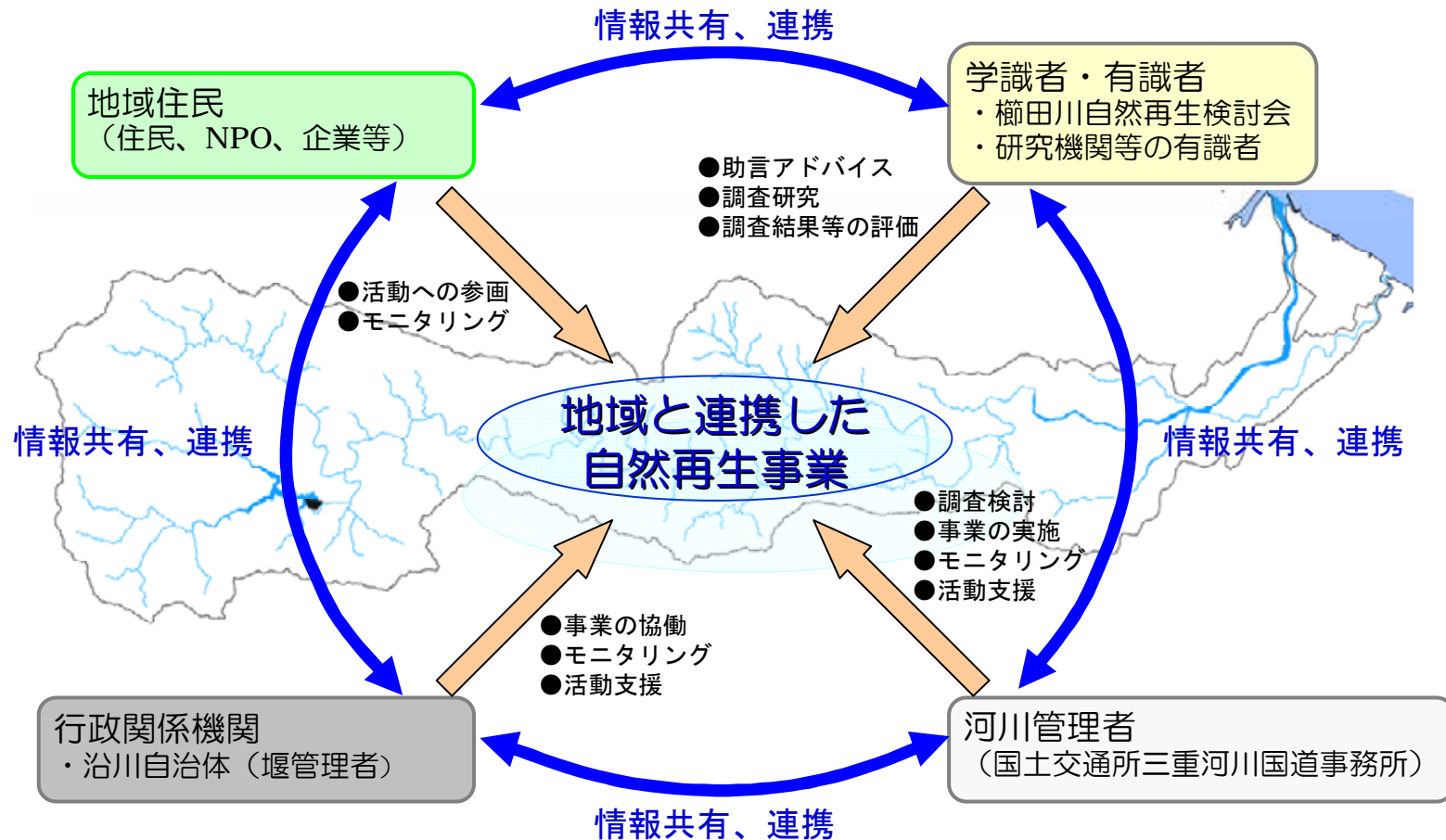
- ・ 魚道機能調査
- ・ 周辺河道の状況調査
- ・ 堰周辺河道の魚類分布調査
- ・ 再生したワンド・たまりの状況調査
- ・ 再生したワンド・たまりの魚類調査

##### 中・長期モニタリング<sup>※</sup>

- ・ 魚類生息状況の簡易調査

## 2. 地域連携

- ・ 櫛田川は、古くより漁業や舟運、食文化、祭事など地域の文化、産業や生活の営みと密着している。
- ・ 流域の歴史・文化といった特徴と地域の風土にあった川づくりを目指すため、櫛田川自然再生事業は、川を利用する地域住民、NPO、団体や企業等が参画し、継続的な連携・協働による川づくりを行い、櫛田川流域へと活動が広がることを目指していく。
- ・ 自然再生事業は、地域と関係機関が一体となって取り組んでいけるように努める。



自然再生における地域連携のイメージ